

始



北山内科教室  
五周年記念

北山内科同門會



420  
135

箱 255  
932



北山教授御近影



北山內科教室五周年記念目次



- 1 序
- 2 北山教授御略歴
- 3 同門會名簿
  - 前 教 授
  - 前 講 師
  - 出 身 者
  - 現 醫 局 員
  - 客 員
- 4 業 績 集
- 5 北山內科教室五周年記念講演會抄録





## 序

維時昭和17年5月25日

大東亞聖戰下に迎ふる我等が恩師北山教授御就任5周年記念日である。

茲に我等先生の御指導御薫陶に浴しつつある門下の輩、此佳き日を長く恩師と共に記念せんとしてこの冊子を編纂するに至つたのである。

本冊子は裂釘實に簡素にして紙數亦多からずと雖も、其の蒐録するところ之れ我等が恩師の御指導による粒々辛苦の記録にして學徒として最上の記念たるべきものなるも、只編者の不敏又なき珠玉を瑕瑾すること多きを懼るるものである。

惟ふに本冊子に收むる論文は直接間接恩師の眞摯熱誠なる御指導と御創意に基くものにして學界未踏の域に進撃する前哨隊とも謂ふべきか。

尙編輯の方針としては恩師の御意向に従ひ、當教室の前身たる柿沼内科教室十周年記念號（昭和8年4月）に蒐録せられたる以後の柿沼教授御指導による業績をも同時に蒐録することとなし、且蒐録の論文は其の要旨をも同時に掲載せんと欲したるも、文簡に過ぎて其の原著の眞意を謬る虞れあるを以て單に題目並に掲載雜誌名のみに止めたり。

終りに臨み恩師の御健康と教室の發展とを衷心より祈念し以て序に代ふる次第なり。

昭和17年5月

編者 識之



## 北山教授御略歴

- 大正11年3月 東京帝國大學醫學部御卒業  
同 年4月 同學部副手ヲ囑託セラレ稲田内科教室勤務  
大正13年6月 岡山醫科大學講師ヲ囑託サレ柿沼内科教室勤務  
大正14年6月 岡山醫科大學助教授ニ任ゼラレ高等官七等ニ敍セラル  
同 年7月 從七位ニ敍セラル  
昭和2年1月 獨逸國ヘ留學ヲ命ゼラル  
同 年7月 高等官六等ニ敍セラル  
同 年8月 正七位ニ敍セラル  
同 年10月 醫學博士ノ學位ヲ授ケラル  
昭和4年4月 御歸朝  
同 年11月 高等官五等, 從六位ニ敍セラル  
昭和7年4月 高等官四等, 正六位ニ敍セラル  
昭和9年11月 高等官三等, 從五位ニ敍セラル  
昭和11年4月 願ニ依リ本官ヲ免ゼラレ, 正五位ニ敍セラル. 日本赤十字社岡山支部病院長兼内科醫長ニ御就任  
昭和12年5月 日本赤十字社岡山支部病院長兼内科醫長ヲ御辭任, 岡山醫科大學教授ニ任ゼラレ高等官三等ニ敍セラル  
昭和14年3月 高等官二等ニ敍セラル  
昭和15年1月 勳四等ニ敍セラレ瑞寶章ヲ授ケラル  
昭和17年4月 岡山醫科大學附屬醫院長ニ補セラル



# 同門會名簿

## 前教授

齋藤精一郎

(自明治34年6月17日  
至大正12年12月21日)

奈良市多門町三十三 (電話奈良927番)

柿沼昊作

(自大正13年3月18日  
至昭和12年5月5日)

東京帝國大學醫學部教授

東京市四谷區舟十五 (電話四谷8181番)

## 前講師

須賀廣太

(自昭和2年3月31日  
至昭和12年6月10日)

市立岡山病院

岡山市上伊福清心町三〇二

露野包夫

(自昭和12年7月6日  
至昭和14年11月21日)

岡山縣御津郡今村西長瀬 (應召)

鍋島清志

(自昭和14年5月3日  
至昭和14年10月31日)

廣島縣芦品郡府中町



出身者 (五十音順)

氏名	勤務先	住所
秋山 實	高知病院	高知市越前町六〇
浅野 静雄		岡山市萬町五六
安藤 要		岡山縣赤磐郡高月村
池田 昇		岡山縣後月郡高屋町八一六
伊藤 駒夫		大分市荷揚町五三
市村 丑雄	岡山縣立結核療養所光風園	岡山市内山下七
生田 静也		岡山縣邑久郡今城村八四八
池上 章		岡山縣玉野市玉二六九三
板野 坂惠	岡山市立市民病院番町分院	岡山市大供一〇二
池宗 逸治	玉野市三井造船所醫局	岡山縣兒島郡興除村欽
井上 勳		兵庫縣佐用郡幕山村福吉(短現)
岩崎 倉市	鞍山病院内	滿洲國鞍山市南二番町五八ノ三
石田 收作		岡山市國富三七四(短現)
宇都宮 博章		大阪市南區高津町十番町二
上野 勝太郎		島根縣簸川郡遙塔村
鶴飼 昌雄		神戸市兵庫區魚棚町二九
宇都宮 三涉	日本赤十字社 高知支部病院内科	高知市新屋敷三四
大田原 英一		岡山縣和氣郡藤野村
長田 孝一		岡山縣邑久郡邑久村
小澤 清躬		神戸市神戸區中山手通七丁目九四
沖野 勝治		岡山縣和氣郡日生町日生
岡 元一		岡山市上西川町一五五
岡崎 武昌		岡山市上西川町一二五ノ一
小津 尙		岡山縣上道郡蟠多村大字藤原
大熊 弘三	三菱炭坑醫院	福岡縣田川郡金田町三菱炭坑社宅

大田原 一祥	岡山醫科大學 衛生學教室助教授	岡山縣和氣郡藤野村
大塚 蕃		岡山縣小田郡笠岡町キリスト教會前
岡 宏		香川縣小豆郡四海村宇伊喜木
大井 大二郎		中支江蘇省鎮江大井醫院
太田 孝三	高松記念病院	香川縣高松市幸町一一四ノ八
河田 豊	岡山縣廳衛生課	岡山市野田屋町二三八
神田 辰夫		岡山縣淺口郡玉島町
川口 潤		岡山市花畑鐘紡岡山工場醫局
河合 忠義		神戸市兵庫區西御原七六
龜山 茂松		岡山縣久米郡福渡町九四八
勝山 薫		北海道釧路市
勝山 榮	松枝病院	岡山縣淺口郡連島町
河田 治行		岡山市門田文化町一〇六八(短現)
木村 敏太		岡山縣兒島郡翠浦町下村四五一
木畑 元米		岡山縣上道郡西大寺町二八四
岸 寅一		德島縣那賀郡新野町高前
岸 健夫		岡山市西中山下三丁目
喜多島 慎一	日本赤十字社 岡山支部病院内科	岡山市門田九八三
木村 勉		兵庫縣印南郡志方町
菊澤 隆昌	海南島北嶺海軍特務部衛生局	三重縣名賀郡名張町本町三八
木口 浩三	岡山市半田療養所	岡山市上石井西口町
菊地 敏行		名古屋市昭和區榎後通五丁目二八
桐野 明夫		岡山市中之町三(短現)
藏本 積		廣島市天神町四〇
倉重 晋		德山市幸町高橋醫院内
桑原 玄	岡山醫科大學藥理學教室	岡山市大供二四八
桑島 俊之		香川縣綾歌郡山田村上田(短現)
小林 孫兵衛		岡山市弓之町



小坂澄治  
小橋幾太郎  
近藤勇造  
小橋茂  
兒玉正三  
坂部浩  
佐藤敏夫  
篠井尙一  
佐藤春海  
齋藤義次  
佐藤靜馬  
坂中只一  
柴田剛太  
重信琢雄  
進藤直作  
杉生喜三  
關谷勝  
國部和男  
高橋莊太郎  
谷口日出夫  
田代喬  
立野清一  
玉尾延忠  
田中四郎  
瀧川克己  
高木豐  
陳双祿  
津田操

尼崎共立病院内科

傷痍軍人岡山療養所

廣島健康相談所

谷病院

野村生命保險會社

玉野市玉造船所醫局

岡山縣上道郡古郡村  
岡山縣御津郡白石村今保四四四  
(短現)  
岡山縣玉野市日比町  
尼崎市西本町北通三ノ九六  
内藤醫院  
廣島縣世羅郡神田村大字萩原福  
田九六八  
倉敷市本町  
岡山縣和氣郡伊部町  
尼崎市昭和北通五丁目一三五  
大分縣宇佐郡豐川村中原  
岡山市上石井二八五  
岡山縣都窪郡早島町療養所官舎  
廣島市高須町四五四ノ二  
岡山縣邑久郡大宮村  
廣島縣双三郡川地村  
神戸市神戸區下山手通五丁目一  
二五  
岡山縣都窪郡三須村  
蒙疆地大同城內鼓樓東街九號  
岡山縣都窪郡吉備町下撫川  
廣島縣双三郡吉舎町  
岡山市小原町一一四  
松江市魚町五一  
大阪市野村生命大阪支店  
香川縣善通寺町延命町  
岡山市門田屋敷八七  
香川縣三豐郡大野原村  
臺灣新竹市東門町二ノ二八四  
岡山市國富瓶井四一一

網島義人  
提健二  
寺尾尙文  
友澤昇  
友廣忠正  
中村松男  
中野滿隆  
永山太郎  
中島達二  
内藤達雄  
中田富士男  
那須毅  
西田忠彦  
野間新  
野村晋  
蓮池堯民  
廣川濟  
平井方策  
藤田富豐  
福田豐  
古田壽次  
藤野源三  
藤井敏夫  
福永光夫  
本多稔  
町田弘一  
松本眞治  
正木忠生

住友生命保險會社大阪支店

滿洲第七三一部隊永山隊

新京滿鐵醫院

神戸市立東山病院

海軍軍醫中佐

廣島簡易保險支局

陸軍省警務局員

府中町立病院

西ノ宮市城ヶ堀六七  
久留米市通町二八六(短現)  
岡山市濱田町一六  
岡山市上西川町一七六  
大阪市住吉區北田邊町一八〇  
神戸市神戸區下山手通ヲ七丁目  
一四二  
大阪市西區堀江通ヲ三丁目二三  
岡山市内山下石山  
岡山縣邑久郡今城村大字北島一  
二四一  
岡山縣玉野市日比町  
姫路市北八代八〇八ノ三  
岡山縣川上郡手莊村  
東京市大森區山五一ノ二七三〇  
(短現)  
吳市中路五丁目八  
岡山市内山下  
神戸市須磨區若宮町一丁目四一  
吳市岩方通一一丁目二一片山方  
岡山縣邑久郡御幸村  
福山市桶屋町  
廣島市南段原町三七二  
東京市中野區朝日ヶ丘五  
愛媛縣伊豫郡松前町大字濱四一  
七  
廣島縣廣品郡府中町  
北支京漢線新郷鐵路分院  
北支山西省大同滿鐵大同診療所  
岡山市西中山下二丁目三四  
岡山市東田町三三  
神戸市神戸區山本通五丁目五五



眞喜屋實享	胃腸病院内	東京市杉並區西商井戸二ノ一五
松田芳郎	興安病院内	滿洲國新京特別市興安大路六三二號
宮崎哲		岡山縣上道郡西大寺町大字松崎
三谷登	住友病院	愛媛縣新居濱町惣揚地
宮田士郎	府中町立病院	廣島縣廣島郡府中町
村山高	阪急健康相談所	大阪市北區堂島上一丁目
森正久	吳市立吳病院	吳市東片山町八三吳病院内
森紀久雄		朝鮮平安南道成川郡崇仁面昌仁里(短現)
森弘文		三重縣四日市市本町二丁目
森加博	海軍共濟組合病院四ツ道路分院	吳市吾妻町一丁目二六
山下賢範		西宮市本町四一
安田英二		岡山市小野田町二五
安原寅一		岡山縣都窪郡妹尾町妹尾六三七
山本太郎		鳥取市東品治町驛前通り
矢野光夫		香川縣三豐郡桑山村(短現)
山本正		豐橋市松葉町一七一(短現)
吉田秀雄	興安病院	滿洲國新京特別市興安大路六三二
吉栖生一		兵庫縣赤穂郡赤穂町
吉申佳辰夫		神戸市兵庫區大開通五丁目
吉田豐太	大阪地方專賣局病院	大阪市住吉區南坂町西一丁目三六
横山丈夫	周桑病院	愛媛縣周桑郡任生川町
米坂彌		和歌山縣伊都郡橋本町東家二一〇
和田泰典		德島縣那賀郡鷺敷町字和食町

## 現 醫 局 員

	氏 名	住 所
助教授	和田直	山口縣吉敷郡岐波村字部山陽莊長官舎
講 師	日下連	岡山縣都窪郡早島町傷痍軍人岡山療養所長官舎
講 師	平木潔	岡山縣御津郡今村下中野
	中島節夫	岡山市高橋町六
	谷正志	神戸市須磨區關守町一丁目七
	松岡健雄	岡山市岡三九
	上田知二	岡山市岡三九
	兒子廉夫	岡山縣御津郡大野村
	林富士郎	三原市系崎町日本赤十字社廣島支部糸崎療養院内
	高原劍二郎	廣島縣廣島市南觀音町一丁目七九一
	吉良良吉	高知縣吾川郡弘岡下ノ村一三八
	鈴木清	高知縣碧海郡新川町
	山根一雄	岡山市東古松三五八
	辻田源吾	岡山市岡山病院内
	磯川恕介	岡山縣淺口郡里庄村
	安永仁司	兵庫縣神崎郡豐富村
	高橋圭爾	岡山市大供更生町六〇六
	奥野正二	岡山市内田本町三丁目二五五
	高橋篤節	岡山市小原町九九
	國富正雄	岡山市内山下三五
	竹林茂	高知縣高岡郡多ノ郷村
	松房實	高松市九龜町三八
	姫井淳	岡山市内田京町一四八
	酒井晃	岡山縣久米郡稻岡南村
	大迫哲郎	鹿兒島縣川邊郡笠砂村赤生木九三



野	*	村	太	郎	山口縣吉敷郡東岐津村山陽莊官舎	
木		下	直	幹	鳥取縣日野郡根雨町根雨病院内	
坪		田	立	也	岡山市内田六三	
山		路	谷	典	岡山市岡一五	
末		永	邦	忠	字部市縁橋通り三	
上		田	徹	也	岡山縣淺口郡鶴方町一〇七六ノ二	
武		藤	和	美	岡山縣勝田郡大崎村大字福二二五	
岡		本		正	岡山縣赤磐郡小野田村	
木		下	博	史	岡山市東古松一五六	
大		田	原	英	郎	岡山縣和氣郡藤野村字大田原
岡		崎	春	雄	廣島縣三原市大字三原	
榎		本	正	治	岡山市小原町九九	
松		田		淳	山口縣下關市大字彦島四六六	
豊		田	立	郎	岡山市大供厚生町一五六藤谷昌良方	
江		木	清	史	岡山縣都窪郡早島町岡山縣立光風園	
齋		藤		勉	岡山縣都窪郡早島町傷痍軍人療養所内	
泉			義	春	高知市新本町一丁目	
安		井	七	五	三	岡山市市民病院本院
筒		野	正	一	郎	神戸市兵庫區今出在家町二丁目一四八
池		田	正	三		岡山縣都窪郡早島町傷痍軍人療養所内
生		長		勇		岡山市日赤支部病院
若		林		素		岡山縣都窪郡早島町岡山縣立光風園
北		垣	忠	男		岡山市下石井幸町二一七今橋方
廣		渡	敬	也		日本赤十字岡山支部病院内
長		田	不	二	彦	吳市廣町海軍集會所内

## 客 員

氏 名	住 所
加 藤 誠 治	西宮市西宮北口
岡 田 淳 一	岡山縣後月郡井原町
高 橋 規 浩	廣島縣治限郡松永町榮町



# 業 績 集

附 記

柿沼内科教室十周年記念號ニ蒐録セラレタル以後

ノ柿沼教授御指導ニヨル業績ヲモ同時ニ蒐録セリ



## 昭和8年度

Zur Struktur und Funktion des  
Zwischenhirns (IV.Mitteilung) 北山加一郎 園部和男  
Arbeiten aus d. Med. Fakult. Okayama 3 Bd. 4 Heft.(1933)

眞性白血病性肋膜炎=就テ 北山加一郎 三谷登  
治療ト處置第164號(昭和8年10月)

## 昭和9年度

胃憩室ノ1例 中島達二  
日本消化器病學會誌第33卷第1號(昭和9年1月)

酸及アルカリ性緩衝液注入ノ生體  
=及ボス影響=就テ 原田要一  
岡山醫學會雜誌第46年第1號(昭和9年1月)

實驗的發熱=ヨル變調=關スル知  
見補遺(第1報) 吉中佳辰夫  
岡山醫學會雜誌第46年第8號(昭和9年8月)

實驗的發熱=ヨル變調=關スル知  
見補遺(第2報) 吉中佳辰夫  
岡山醫學會雜誌第46年第9號(昭和9年9月)

實驗的發熱=ヨル變調=關スル知  
見補遺(第3報) 吉中佳辰夫  
岡山醫學會雜誌第46年第10號(昭和9年10月)

實驗的發熱=ヨル變調=關スル知  
見補遺(第4報) 吉中佳辰夫  
岡山醫學會雜誌第46年第11號(昭和9年11月)



若年者痛腫性腹膜炎ノ1例

藤野源三 鍋島清志  
日本消化器病學會誌第33卷第9號(昭和9年9月)

幽門癌(附)幽門狹窄症ノ良性カ悪性  
カノ判別等=就テ

柿沼教授  
診斷ト治療第22卷第2號(昭和9年10月)

### 昭和10年度

僧帽辨口狹窄症特=其ノ心雜音=就  
テ

柿沼教授  
實驗醫報第21年第244號(昭和10年2月)

慢性脾腫及ビ大動脈炎

柿沼教授  
實驗醫報第21年第246號(昭和10年4月)

アチソン氏病

柿沼教授  
診斷ト治療第22卷第8號(昭和10年5月)

所謂進行性神經性筋萎縮症ノ2例

中島達二  
神經學誌第38卷第7號(昭和10年4月)

生體ノ變調=關スル研究(第4報)

柿沼教授 外三名  
日本內科學會誌第23卷第6號(昭和10年6月)

猩紅熱ノ稀有ナル合併症=就テ

市村丑雄  
日本傳染病學會誌第9卷第9號(昭和10年6月)

結節性腦硬化症ノ1例

菊澤隆尙 瀧川克己  
岡山醫學會誌第47年第6號(昭和10年6月)

Zum Problem der Schlafzentren.

T. Ohkuma, K. Tuyuno.  
Folia Psychiatrica et Neurologica Japonica, Bd. 1, Heft 3. (1935).

肺臟癌及ビ縱隔竇腫瘍症狀

柿沼教授  
實驗醫報第21年第250號(昭和10年8月)

腸チフス經過中=縱隔竇出血ヲ起  
セシ1例

平木 潔 勝山 榮  
岡山醫學會誌第47年第10號(昭和10年10月)

印刷業者ノ職業性疾患特=鉛中毒  
=關スル調査報告1及ビ2

木口浩三  
勞働科學研究第12卷第5號(昭和10年11月)

炎衝反應傾向=就テ(其ノ1)

龜山茂松 板野坂惠  
岡山醫學會誌第47年第11號(昭和10年11月)

炎衝反應傾向=就テ(其ノ2)

龜山茂松 板野坂惠  
岡山醫學會誌第47年第12號(昭和10年12月)

內科領域=於ケル腹部腫瘍

柿沼教授  
診斷ト治療臨時増刊診療要覽(昭和10年11月)

白血球活力=關スル研究(第1報)

池上章  
岡山醫學會雜誌第47年第11號(昭和10年11月)

白血球活力=關スル研究(第2報)

池上章  
岡山醫學會雜誌第47年第12號(昭和10年12月)

### 昭和11年度

白血球活力=關スル研究(第3報)

池上章  
岡山醫學會雜誌第48年第1號(昭和11年1月)

白血球活力=關スル研究(第4報)

池上章  
岡山醫學會雜誌第48年第3號(昭和11年3月)

白血球活力=關スル研究(第5報)

池上章  
岡山醫學會雜誌第48年第4號(昭和11年4月)



數種疾患々者ニ於ケル白血球活力ニ  
就テ

池上 章  
(假印刷)

郵便現業員ノ尿検査成績

池上 章  
(假印刷)

尿中「ヒドロキノン」及ビ「ブレン  
ツカテヒン」ノ定量法竝ニ家兎尿  
中含量ニ就テ

市村丑雄  
岡山醫學會雜誌第48年第1號(昭和11年1月)

ロダン代謝知見補遺

市村丑雄  
岡山醫學會雜誌第48年第2號(昭和11年2月)

腦炎患者ノ四肢筋クロナキシーニ  
就テ

眞喜屋實享  
岡山醫學會雜誌第48年第4號(昭和11年4月)

生體ノ變調ニ關スル研究第5報

柿沼教授、外九名  
日本內科學會雜誌第24卷第3號(昭和11年6月)

家兎皮下組織球性細胞ノ墨粒貪食  
機能ニ就テ

龜山茂松、板野坂惠  
岡山醫學會雜誌第48年第8號(昭和11年8月)

淋巴ノ研究補遺(第1報)

大塚 蕃  
岡山醫學會雜誌第48年第8號(昭和11年8月)

淋巴ノ研究補遺(第2報)

大塚 蕃  
岡山醫學會雜誌第48年第9號(昭和11年9月)

淋巴ノ研究補遺(第3報)

大塚 蕃  
岡山醫學會雜誌第48年第10號(昭和11年10月)

網狀織内細胞機能失調時ニ於ケル  
血中 Polypeptidase 量ニ就テ

大塚 蕃  
岡山醫學會雜誌第48年第11號(昭和11年11月)

バセドウ氏病及ビ其ノ循環器系統  
症狀

柿沼教授  
診斷ト治療第23卷第9號(昭和11年9月)

一般發熱ノ藥物療法

柿沼教授  
診斷ト治療臨時増刊第13編

## 昭和12年度

生體ノ調整能機構ニ關スル研究補  
遺(第2報)

園部和男  
岡山醫學會雜誌第49年第1號(昭和12年1月)

生體ノ調整能機構ニ關スル研究補  
遺(第3報)

園部和男  
岡山醫學會雜誌第49年第6號(昭和12年6月)

血液竝ニ臟器内還元 Glutation ニ  
就テ(第1報)

鍋島清志  
岡山醫學會雜誌第49年第3號(昭和12年3月)

血液竝ニ臟器内還元 Glutation ニ  
就テ(第2報)

鍋島清志  
岡山醫學會雜誌第49年第4號(昭和12年4月)

炎衝反應傾向ニ就テ(其ノ3)

龜山茂松、板野坂惠  
岡山醫學會雜誌第49年第4號(昭和12年4月)

腦膜透過性ノ實驗的研究(第3報)

龜山茂松  
岡山醫學會雜誌第49年第4號(昭和12年4月)



日本流行性腦炎ノ臨牀醫學的及ビ  
流行學的事項=就テ

柿沼教授  
醫海事報自第2224號至第2225號(昭和12年4月)

日本流行性腦炎ノ臨牀醫學的及ビ  
流行學的事項=就テ(宿題報告)

柿沼教授  
日本內科學會雜誌第25卷第1號(昭和12年4月)

結節性皮下動脈炎

森弘文  
岡山醫學會雜誌第49年第5號(昭和12年5月)

血液腹腔液間隔=關スル研究

龜山茂松 森正久  
岡山醫學會雜誌第49年第5號(昭和12年5月)

生體內銅ノ研究(第1報)

露野包夫  
岡山醫學會雜誌第49年第5號(昭和12年5月)

生體內銅ノ研究(第2報)

露野包夫  
岡山醫學會雜誌第49年第6號(昭和12年6月)

生體內銅ノ研究(第3報)

露野包夫  
岡山醫學會雜誌第49年第7號(昭和12年7月)

生體內=於ケル銅ノ意義

露野包夫  
東西醫學會雜誌第4卷第10號(昭和12年10月)

再生機能減弱性貧血

北山教授  
診斷ト治療第24卷第10號(昭和12年6月)

實驗的非特異性操作後ノ血液學的  
考察(第1報)

中島達二  
岡山醫學會雜誌第49年第7號(昭和12年7月)

實驗的非特異性操作後ノ血液學的  
考察(第2報)

中島達二  
岡山醫學會雜誌第49年第8號(昭和12年8月)

實驗的非特異性操作後ノ血液學的  
考察(第3報)

中島達二  
岡山醫學會雜誌第49年第9號(昭和12年9月)

實驗的非特異性操作後ノ血液學的  
考察(第4報)

中島達二  
岡山醫學會雜誌第49年第10號(昭和12年10月)

遷延性流行性腦脊髓膜炎

北山教授  
實驗ト醫學第23年第276號(昭和12年10月)

肺結核患者=於ケル血清凝固反應  
(Weetmann)=就テ

田中四郎  
岡山醫學會雜誌第49年第11號(昭和12年11月)

自昭和8年至昭和11年入院流行性  
腦炎患者ノ統計的臨牀觀察

日下連 中島節夫  
岡山醫學會雜誌第49年第11號(昭和12年11月)

安東地方=於ケル痘瘡患者ト種痘

鹿野豊 中島達二  
(假印刷)

酸及ビアルカリ排泄能力=ヨル腎  
臟機能検査法=就テ

村山高 横山丈夫  
(假印刷)

### 昭和13年度

生體內銀ノ研究(第5報)

眞喜屋實享  
日本消化器病學會雜誌第37卷第1號(昭和13年1月)

昭和11年度流行性腦炎病毒ノ研究

眞喜屋實享  
東京醫事新誌第3067號(昭和13年1月)

流行性腦炎患者ノ皮内試験=就テ

眞喜屋實享  
東京醫事雜誌第3067號(昭和13年1月)



肺結核ヲ合併セル心室中隔缺損症  
北山教授  
内外治療第13年第1號(昭和13年1月)

肝硬變症 (臨牀講義)  
北山教授  
臨牀日本醫學第7卷第2號(昭和13年2月)

皮下組織ニ寄生セル人體有鉤囊蟲症  
北山教授  
診療ト經驗第2卷第310號(昭和13年3月)

黃疸, 肝腫, 膽囊腫ノ三症狀 (膽道痛)  
北山加一郎  
治療及ヒ處法第217號(昭和13年3月)

昭和12年度夏岡山地方ニ於ケル腦炎ニ關スル研究 殊ニ血液竝ニ腦脊髄液中ノ病毒消長  
北山加一郎  
東京醫事新誌第3674號(昭和13年3月)

流行性腦炎恢復者ノ血中免疫體ノ長期的觀察 (豫報)  
北山教授 外三名  
東京醫事新誌第3079號(昭和13年4月)

潜在性尿崩症  
北山教授  
治療ト經驗第2卷第5冊第12號(昭和13年5月)

間腦ノ構造ト其ノ機能  
北山教授 外三名  
日本內科學會雜誌第26卷第3號(昭和13年6月)

不全型夏期腦炎ノ2例  
北山教授 山根一雄  
日本內科學會雜誌第26卷第7號(昭和13年10月)

人體有鉤囊蟲症ノ1例(共ノ1)  
高原劍二郎  
日本消化器病學會雜誌第37卷第3號(昭和13年3月)

診斷困難ナリシ肝臟ヂストマ症ノ1例  
野村 晋  
東京醫事新誌第3083號(昭和13年5月)

印刷業従業員ノ鉛中毒者ノ臨牀醫學的所見  
木口浩三  
勞働科學研究第15卷第3號(昭和13年 月)

非經口的輸入卵白ノ運命ニ關スル研究 (第1編)  
藏本 積  
岡山醫學會雜誌第50年第8號(昭和13年8月)

非經口的輸入卵白ノ運命ニ關スル研究 (第2編)  
藏本 積  
岡山醫學會雜誌第50年第11號(昭和13年11月)

非經口的輸入卵白ノ運命ニ關スル研究 (第3編)  
藏本 積  
岡山醫學會雜誌第50年第12號(昭和13年12月)

非經口的輸入卵白ノ運命ニ關スル研究 (第4編) (假印刷)  
藏本 積  
岡山醫學會雜誌第51年第1號(昭和14年1月)

Vitamin Cノ研究 (第1報)  
森加 博  
岡山醫學會雜誌第50年第7號(昭和13年7月)

Vitamin Cノ研究 (第2報)  
森加 博  
岡山醫學會雜誌第50年第8號(昭和13年8月)

Vitamin Cノ研究 (第3報)  
森加 博  
岡山醫學會雜誌第50年第9號(昭和13年9月)

Gärtner 腸炎ノ臨牀竝ニ細菌學的觀察  
米坂 彌  
岡山醫學會雜誌第50年第8號(昭和13年8月)



蟲様突起炎=起因セル腹膜假性粘  
液腫ノ1例

林 富士郎 佐藤 玄  
日本消化器病學會雜誌第37卷第9號(昭和13年9月)

肺結核患者ノ循環器機能研究(第  
1報)

田中四郎  
岡山醫學會雜誌第50年第9號(昭和13年9月)

肺結核患者ノ循環器機能研究(第2  
報)

田中四郎  
岡山醫學會雜誌第50年第11號(昭和13年11月)

小兒赤痢=於ケル腸出血=就テ

米坂 彌  
日本傳染病學會雜誌第13卷第3號(昭和13年12月)

「腸チフス」=合併セル脾臟膿瘍=  
端ヲ發セル急性汎發性腹膜炎ノ症  
例

米坂 彌 倉橋三郎  
關西醫事第413號(昭和13年12月)

アミノ酸及ビ葡萄糖ノ血清成分中  
ノ配置=就キテ

和田 直  
東京醫事新誌第3114號(昭和13年12月)

### 昭和14年度

眞性赤白血球增多症(臨牀講義)  
(附)赤血球形成(Erythropoese)

北山教授  
實驗ト醫學第25年第291號(昭和14年1月)

昭和13年度夏期腦炎=關スル綜合  
的研究要旨

北山教授 外九名  
東京醫事新誌第3143號(昭和14年7月)

日本流行性腦炎患者ノ血液及ビ脊  
髓液内ノ病毒ノ消長

北山教授 三田村教授  
外三名  
東京醫事新誌第3143號(昭和14年7月)

急性腦炎ノ症狀ト療法

北山教授  
醫事公論第3413號(昭和14年8月)

二硫化炭素中毒症

北山加一郎 菊澤隆尙  
診斷ト經驗第3卷第11册(昭和14年11月)

尿中有機酸ノ研究(第1報)

佐藤靜馬  
岡山醫學會雜誌第51年第1號(昭和14年1月)

尿中有機酸ノ研究(第2報)

佐藤靜馬  
岡山醫學會雜誌第51年第2號(昭和14年2月)

尿中有機酸ノ研究(第3報)

佐藤靜馬  
岡山醫學會雜誌第51年第3號(昭和14年3月)

脂肪新陳代謝知見補遺(第2報)

磷中毒及ビ饑餓家兎=於ケル血中

脂肪竝ビ=糖量ノ消長=就テ

森 弘文  
日本消化器病學會雜誌第4卷第1號(昭和14年1月)

脂肪新陳代謝知見補遺(第3報)

森 弘文  
日本消化器病學會雜誌第4卷第2號(昭和14年3月)

脂肪新陳代謝知見補遺(第4報)

森 弘文  
日本消化器病學會雜誌第4卷第2號(昭和14年3月)



脂肪新陳代謝知見補遺 (第5報) 森 弘 文  
日本消化器病學會雜誌第4卷第2號(昭和14年3月)

脂肪新陳代謝知見補遺 (第6報) 森 弘 文  
日本消化器病學會雜誌第4卷第2號(昭和14年3月)

流行性腦炎患者ノ血液像ニ就テ 中 島 節 夫  
日本傳染病學會雜誌第13卷第5號(昭和14年2月)

シェーンラインヘノツホ氏紫斑病  
ノ1例ニ就テ 高 橋 篤 節  
東京醫事新誌第3123號(昭和14年2月)

流行性腦炎病毒ノ研究(血液並ニ  
腦脊髄液中ノ病毒ノ消長) 藤 井 敏 夫  
日本傳染病學會雜誌第13卷第5號(昭和14年2月)

流行性腦炎恢復者ノ血中免疫體ノ  
長期的觀察 藤 井 敏 夫  
日新醫學第28年第6號(昭和14年6月)

原發性小腸間膜纖維腫ノ1例 磯 川 恕 介 中 村 善 亮  
グレンツゲビーフ第13年第3號(昭和14年3月)

肺結核病ノ生物學的診斷法研究補  
遺(其ノ2) 田 中 四 郎  
岡山醫學會雜誌第51年第3號(昭和14年3月)

感冒ノ合併症 北 山 教 授  
醫事公論第1388號(昭和14年3月)

流行性腦炎ニ關スル補體結合反應 藤 井 敏 夫  
東京醫事新誌第63年第3124號(昭和14年3月)

脾臟膿瘍ノ1例 陳 双 祿  
日本消化器病學會雜誌第38卷第3號(昭和14年3月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第1回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第3號(昭和14年3月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第2回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第4號(昭和14年4月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第3回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第6號(昭和14年6月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第4回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第7號(昭和14年7月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第5回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第8號(昭和14年8月)

發熱時ノ肝臟機能ニ關スル研究  
(第6回報) 齋 藤 義 次  
日本消化器病學會雜誌第38卷第9號(昭和14年9月)

結核患者尿中ノリポイド抗原性物  
質ニ就テ 森 加 博  
岡山醫學會雜誌第51年第4號(昭和14年4月)



動物體內解毒作用ト其ノ變調=關  
スル研究

佐藤 靜馬 鷗飼 昌雄  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 4 號(昭和 14 年 4 月)

動物體內解毒作用ト酸化機序トノ  
手繋=就テ

佐藤 靜馬 鷗飼 昌雄  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 5 號(昭和 14 年 5 月)

氣管側淋巴腺結核ヨリ急激=進展  
セシ高年者肺結核症ノ 1 例

森 弘文 倉重 晋  
東京醫事新誌第 3136 號(昭和 14 年 5 月)

所謂腸室扶斯性肋膜炎=就テ

奥野 正二  
日本傳染病學會雜誌第 13 卷第 8 號(昭和 14 年 5 月)

呼吸内炭酸張力測定=ヨル胃内酸  
度ノ推知=就テ

瀧川 克己 吉田 壽次  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 6 號(昭和 14 年 6 月)

尿及ビ血清中オキシプロテイン酸  
「フラクチオン」ノ研究(第 1 報)

佐藤 靜馬  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 6 號(昭和 14 年 6 月)

尿及ビ血清中オキシプロテイン酸  
「フラクチオン」ノ研究(第 2 報)

佐藤 靜馬  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 7 號(昭和 14 年 7 月)

尿及ビ血清中オキシプロテイン酸  
「フラクチオン」ノ研究(第 3 報)

佐藤 靜馬  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 8 號(昭和 14 年 8 月)

炭火中毒後=來レル錐體外路症候  
群特=突症狀著明ナル 1 例

磯川 恕介  
精神神經學第 43 卷第 7 號(昭和 14 年 7 月)

過敏症抗體變動=關スル研究(第  
1 報)

横山 丈夫  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 7 號(昭和 14 年 7 月)

「ペンツオール」ト抗體量ト=就テ  
(第 2 報)

横山 丈夫  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 8 號(昭和 14 年 8 月)

ペンツオール中毒ノ血液像=及ボ  
ス影響=就テ

横山 丈夫  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 10 號(昭和 14 年 10 月)

沃度酸寒冷値=就テ(第 1 報)

鍋島 清志  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 6 號(昭和 14 年 6 月)

沃度酸寒冷値=就テ(第 2 報)

鍋島 清志  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 7 號(昭和 14 年 7 月)

沃度酸寒冷値=就テ(第 3 報)

鍋島 清志  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 8 號(昭和 14 年 8 月)

沃度酸寒冷値=就テ(第 4 報)

鍋島 清志  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 9 號(昭和 14 年 9 月)

沃度酸寒冷値=就テ(第 5 報)

鍋島 清志  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 10 號(昭和 14 年 10 月)

岡山市=於ケル赤痢及ビ疫痢様疾  
患ノ細菌學的觀察

坂中 只一  
日本傳染病學會雜誌第 13 卷第 8 號(昭和 14 年 5 月)

岡山市=於ケル赤痢及ビ疫痢様疾  
患ノ臨牀學的觀察

坂中 只一  
岡山醫學會雜誌第 51 年第 6 號(昭和 14 年 6 月)

犬腦視丘下部ノ細胞學的研究

坂中 只一  
精神神經學第 43 卷第 6 號(昭和 14 年 6 月)



間腦下垂體系ノ解剖學的連絡ニ就テ

坂中只一  
精神神經第43卷第8號(昭和14年8月)

Paratyphus Bト赤痢トノ混合感染症例

坂中只一 藤井敏夫  
岡山醫學會雜誌第51年第6號(昭和14年6月)

河豚中毒ノ1例

和田直  
東京醫事新誌第3149號(昭和14年8月)

糖尿ヲ伴ヘル指端肥大症ノ1例

森加博  
精神神經第43卷第8號(昭和14年8月)

非特異性操作時ニ於ケル血液諸種蛋白性狀ノ變化ニ關スル實驗的研究(第1報)所謂填塞操作ニヨル實驗的研究

瀧川克己  
岡山醫學會雜誌第51年第8號(昭和14年8月)

非特異性操作時ニ於ケル血液諸種蛋白性狀ノ變化ニ關スル實驗的研究(第2報)

瀧川克己  
岡山醫學會雜誌第51年第9號(昭和14年9月)

非特異性操作時ニ於ケル血液諸種蛋白性狀ノ變化ニ關スル實驗的研究(第3報)

瀧川克己  
岡山醫學會雜誌第51年第10號(昭和14年10月)

臟器相關ニ對スル實驗的研究(第1報及第2報)

勝山榮  
岡山醫學會雜誌第51年第8號(昭和14年8月)

臟器相關ニ對スル實驗的研究(第3報)

勝山榮  
岡山醫學會雜誌第51年第9號(昭和14年9月)

臟器相關ニ對スル實驗的研究(第4報)

勝山榮  
岡山醫學會雜誌第51年第10號(昭和14年10月)

臟器相關ニ對スル實驗的研究(第5報)

勝山榮  
岡山醫學會雜誌第51年第11號(昭和14年11月)

多發性內壓性食道憩室ノ1例

和田直  
日本消化器病學會雜誌第38卷第10號(昭和14年10月)

家兔赤血球沈降速度ニ就テ

田中四郎 瀧川克己  
岡山醫學會雜誌第51年第11號(昭和14年11月)

血中アルコール量ノ消長ニ就テ(第1報)

鶴飼昌雄  
岡山醫學會雜誌第51年第12號(昭和14年12月)

血中アルコール量ノ消長ニ就テ(第2報)

鶴飼昌雄  
岡山醫學會雜誌第51年第12號(昭和14年12月)

血中アルコール量ノ消長ニ就テ(第3報)

鶴飼昌雄  
岡山醫學會雜誌第51年第12號(昭和14年12月)

直腸筋腫ノ1例

菊澤隆尙 上田知二  
東西醫學第6卷第12號(昭和14年12月)

血液組織間物質交代現象ニ及ボス「ヒスタミン」ノ影響ニ就テ

中田富士男  
日本消化器病學會雜誌第38卷第12號(昭和14年12月)

最近15年間ニ我內科教室ニ收容セル(ベセド-氏)病患者ノ統計的觀察(第1編)

倉重晋  
內分泌實驗治療第8卷第2號(昭和14年12月)



## 昭和15年度

最近15年間=我内科教室=收容セ  
ル(バセド-氏)病患者ノ統計的觀  
察(第2編)

倉重 晋  
内分泌實驗治療第8卷第3號(昭和15年3月)

最近15年間=我内科教室=收容セ  
ル(バセド-氏)病患者ノ統計的觀  
察(第3編)

倉重 晋  
内分泌實驗治療第8卷第3號(昭和15年3月)

本態性色素係數低下性貧血

北山教授 山根一雄  
臨牀内科第6卷第1號(昭和15年1月)

流行性腦炎ノ血清療法=對スル批  
判ト經驗

北山教授  
診斷ト治療第27卷第1號(昭和15年1月)

本邦流行性腦炎最近1箇年半ノ業  
績回顧

北山教授  
日新治療第233號(昭和15年1月)

血液組織間物質交代現象=及ボス  
「ヒスタミン」ノ影響ト網狀織内被  
細胞トノ關係

中田富士男  
日本消化器病學會雜誌第39卷第1號(昭和15年1月)

間腦々下垂體ト甲状腺トノ關係  
(第2報)

倉重 晋  
日本内科學會雜誌第27卷第10號(昭和15年1月)

僧帽瓣閉鎖不全症特=心臟性雜音

北山教授  
臨牀講義第125號(昭和15年1月)

血中Alkohol量ノ消長=就キテ  
(第4報)

勅飼昌雄  
岡山醫學會雜誌第52年第2號(昭和15年2月)

中樞神經ト糖代謝トノ關係(第2  
報)

淺野靜男  
日本消化器病學會雜誌第39卷第2號(昭和15年2月)

自大正15年至昭和14年入院潰瘍性  
大腸炎患者ノ統計的臨牀觀察

淺野靜男  
岡山醫學會雜誌第52年第2號(昭和15年2月)

流行性腦炎病毒蚊傳播説=對スル  
批判的動物實驗

山根一雄  
日本傳染病學會雜誌第14卷第6號(昭和15年3月)

手術=ヨリ輕快セル小兒(バセド-  
氏)病ノ1例

木口浩三  
岡山醫學會雜誌第52年第3號(昭和15年3月)

「トリブシン」免疫=依ル生體ノ變  
調(第1報)特=肝機能ノ檢索

木口浩三  
日本消化器病學會雜誌第39卷第6號(昭和15年6月)

最近10年間當科入院肺炎患者ノ臨  
牀統計的觀察

木口浩三  
岡山醫學會雜誌第52年臨牀特輯第1號(昭和15年9月)

Klinische u. experimentelle Beiträge zum  
Leukozytenbild bei Urämie.

和田直  
Arbeiten aus d. Med. Fakul. Okayama Bd. 6 Heft. 3 (昭和15年3月)

炎衝反應傾向=就テ

板野坂惠  
岡山醫學會雜誌第52年第3號(昭和15年3月)



炎衝反應傾向=就テ (其ノ5)

板野坂惠  
岡山醫學會雜誌第52年第4號(昭和15年4月)

炎衝反應傾向=就テ (其ノ6)

板野坂惠  
岡山醫學會雜誌第52年第5號(昭和15年5月)

結核ノ經過中=發セル症候性精神  
病ノ1例

山路谷典  
日本臨牀結核第1卷第5號(昭和15年6月)

發疹熱病毒接種家兎=於ケル血液  
像特=網狀赤血球及ビ血漿板=就  
テ

米坂彌  
岡山醫學會雜誌第52年第6號(昭和15年6月)

高度ノ黃疸ヲ伴ヘル穿孔性腸チフ  
スノ1剖檢例

鶴飼昌雄  
日本傳染病學會雜誌第14卷第10號(昭和15年7月)

「トリブシン」免疫=依ル生體ノ變  
調(第2報)

木口浩三  
日本消化器病學會雜誌第39卷第7號(昭和15年7月)

夏期腦炎48例ノ後遺症ノ統計的觀  
察

林富士郎  
岡山醫學會雜誌第52年第8號(昭和15年8月)

脾竝=腦内轉移ヲ來セル肺臟癌ノ  
1例=就テ

松田芳郎  
グレンツグレポート(昭和15年8月)

單ナルレ線像ヲ部位診斷至難ナ縱  
隔竇(上後部)腫瘍

北山加一郎 高橋圭爾  
治療及ビ處法第247號(昭和15年9月)

眞性赤血球增多症ノ1例

高橋篤節  
岡山醫學會雜誌第52年臨牀特輯第1號(昭和15年9月)

口唇「ヘルペス」ヲ伴ヒタル結核性  
腦膜炎ノ1例

山路谷典  
臨牀ノ日本第84卷第10册第84號(昭和15年10月)

Experimentelle Untersuchungen  
über d. Wesen der „absoluten  
Lymphopenie“ bei Urämie und  
Cholämie.

和田直  
Arbeiten aus d. Med. Fakl. Okayama Bd. 6 H. 4 (昭和15年10月)

間腦—腦下垂體系ト甲状腺トノ關  
係(甲)

倉重晋  
精神神經第44卷第10號(昭和15年10月)

間腦—腦下垂體系ト甲状腺トノ關  
係(乙)

倉重晋  
精神神經第44卷第10號(昭和15年10月)

間腦—腦下垂體系ト甲状腺トノ關  
係(丙)

倉重晋  
精神神經第44卷第10號(昭和15年10月)

前方反張ヲ呈シタ慢性破傷風

北山加一郎 大迫哲郎  
臨牀内科第6卷第11號(昭和15年11月)

中樞神經ト糖代謝トノ關係(第3  
報)

淺野靜男  
日本消化器病學會雜誌第39卷第11號(昭和15年11月)

昭和14年度夏季腦炎=關スル綜合  
的研究(前半要旨)

北山教授 外六名  
日本醫學及ビ健康保險第3209號(昭和15年11月)

岡山市内=於ケル家鼠ノ黃疸出血  
性スピロヘータ保有率=就テ

野村晋 兒子廉夫  
高橋篤郎 姫井淳  
日本傳染病學會雜誌第15卷第2號(昭和15年11月)



昭和14年度流行性腦炎=關スル綜合的研究(後半要旨)

北山教授 外 八 名  
日本醫學及健康保險第 3211 號(昭和 15 年 11 月)

腦炎患者皮内反應ノ診斷的價值並  
=血中特異抗體トノ關係

松田芳郎  
日本傳染病學會雜誌第 15 卷第 3 號(昭和 15 年 12 月)

腦炎患者白血球墨粒貪喰機能ヨリ  
見タル抵抗力ノ推移=就テ

松田芳郎  
日本傳染病學會雜誌第 15 卷第 3 號(昭和 15 年 12 月)

局所的炎衝性反應ノ非特異性轉換  
=就テ(第 1 表)

小坂澄治  
岡山醫學會雜誌第 52 年第 12 號(昭和 15 年 12 月)

腦下垂體性侏儒ノ 2 例

林 富士郎  
岡山醫學會雜誌第 52 年第 12 號(昭和 15 年 12 月)

## 昭和 16 年度

岡山地方=於ケル發疹熱ノ統計的  
臨床的觀察

淺野靜男  
岡山醫學會雜誌第 53 年第 1 號(昭和 16 年 1 月)

流行性腦炎病毒ワクチン=ヨル免  
疫抗體產生ノ臨床實驗

松田芳郎  
日本傳染病學會雜誌第 15 卷第 4 號(昭和 16 年 1 月)

胃漿膜=原發セル Cöliteloma  
malignum = 就テ

松田芳郎 中村善亮  
日本消化器病學會雜誌第 40 卷第 2 號(昭和 16 年 2 月)

血液眼房水關=關スル實驗的研究  
(第 3 報)「ヒスタン」ノ關透過性  
=及ボス影響

廣川 濟  
岡山醫學會雜誌第 53 年第 2 號(昭和 16 年 2 月)

慢性黃疸(特=剔脾=ヨリ治癒セ  
ザル溶血性黃疸例)臨牀講義

北山加一郎  
診斷ト治療第 28 卷第 2 號(昭和 16 年 2 月)

空腸=嵌頓セル柿胃石(Kakibezoar)  
ノ 1 例

木下直幹 萱田靜海  
日本消化病學會雜誌第 40 卷第 3 號(昭和 16 年 3 月)

流行性腦炎患者=對スル傳研免疫  
馬血清脊髓腔内適用=關スル理論  
的考察(第 1 編)

山根一雄  
日本傳染病學會雜誌第 15 卷第 6 號(昭和 16 年 3 月)

流行性腦炎患者=對スル傳研免疫  
馬血清脊髓腔内適用=關スル理論  
的考察(第 2 編)

山根一雄  
日本傳染病學會雜誌第 15 卷第 7 號(昭和 16 年 4 月)

進行性偏側顔萎縮(Hemiatrophia  
faciei)ノ中樞性成因說=就テ

北山加一郎  
實驗ト醫學第 390 號(昭和 16 年 5 月)

副腎内神經分布=就テ

磯川恕介  
岡山醫學會雜誌第 58 年第 5 號(昭和 16 年 5 月)

結核性腦膜炎ノグイダール反應=  
就テ

和田 直 藤井千秋  
那須 毅  
精神神經第 45 卷第 5 號(昭和 16 年 5 月)

汎發性皰皮症ノ 2 例=就テ

木下直幹  
岡山醫學會雜誌第 53 年臨時特輯第 1 號(昭和 16 年 6 月)



「肺チストマ」寄生性腦膜炎ノ1例  
殊ニ腦脊髄液中エオチン嗜好性白  
血球ノ出現ニ就テ

野々村太郎

岡山醫學會雜誌第53年第6號(昭和16年6月)

急性胃擴張症ニ就イテ(附)急性  
ノ心窩部痛嘔吐虚脱ノ三主徴

北山加一郎

診断ト治療第21巻第1號(昭和16年1月)

腰部神經痛ノ療法

北山加一郎

臨牀ノ日本第8巻第1號(昭和16年6月)

下空靜脈(肝臟部)完全閉塞症ノ  
1例

和田直山川斌

診断ト治療27巻12號(昭和16年12月)

慢性二硫化炭素中毒症ノ1例

高原劍二郎 菊澤隆尙

岡山醫學會雜誌第53年臨時特輯第1號(昭和16年6月)

島外性糖尿病ノ1例

吉良良吉

岡山醫學會雜誌第53年臨時特輯第1號(昭和16年7月)

流行性腦炎ノ對症療法(第1報)

吉良良吉

岡山醫學會雜誌第53年第6號(昭和16年6月)

流行性腦炎ノ對症療法(第2報)

吉良良吉

岡山醫學會雜誌第53年第7號(昭和16年7月)

流行性腦炎ノ對症療法 諸種強心  
劑加等張葡萄糖液或ハ「ロツク液」  
ノ靜脈内點滴注入ノ效果臨牀的  
(效果ノ檢討)(第3報)(其ノ2)

吉良良吉

岡山醫學會雜誌第53年第10號(昭和16年10月)

實驗的糖尿病(ヤング氏犬)ニ關ス  
ル研究(第1報)ヤング氏糖尿病  
犬ノ臨牀的所見ニ就テ

野々村太郎

日本消化器病學會雜誌第40巻第7號(昭和16年7月)

巨大ナル腎腫瘍其ノ他畸形ヲ伴ヘ  
ル結節性腦硬化症ノ1例

高原劍二郎 中村馨

精神神經學第45巻第7號(昭和16年7月)

流行性腦炎患者ノ骨髓像ニ就テ

森正久

日本傳染病學會雜誌第15巻第10號(昭和16年7月)

リーデル氏腫瘍ヲ形成セル慢性脾  
臟炎ノ1治驗例

林富士郎

日本消化器病學會雜誌第40巻第8號(昭和16年8月)

自律神經系機能検査法トシテノCold

Pressor testニ對スル批判

木下直幹 松田芳郎

岡山醫學會雜誌第53年第9號(昭和16年9月)

徐脈性低血壓症ノ2例

平木潔

岡山醫學會雜誌第53年第9號(昭和16年9月)

家族性エオチン嗜好性白血球增多  
症例竝ニ本邦文獻ニ關スル展望

平木潔

岡山醫學會雜誌第53年第10號(昭和16年10月)

抗腦炎免疫馬血清筋肉内注射時ノ  
血液竝ニ腦脊髄液中ニ於ケル該血  
清ノ推移ニ就テ

高橋圭爾

日本傳染病學會雜誌第15巻第12號(昭和16年9月)

腦炎發生ノ内因トシテノ血中中和  
物質ノ意義ニ關スル臨牀調査

高橋圭爾

日本傳染病學會雜誌第16巻第1號(昭和16年10月)

バンチ氏病ノ2別脾治驗例

木下直幹 大迫哲郎

岡山醫學會雜誌第53年第11號(昭和16年11月)

急性傳性病時ノ循環器系障礙ニ對  
スル興奮劑ノ效果批判

北山加一郎

診断ト治療第21巻第9號(昭和16年9月)



## 昭和17年度

日本住血吸蟲症(片山地方)ノ臨牀  
所見竝ニ知見補遺(第1回)

磯川 恕介 松田 芳郎  
大森 次彦

日本傳染病學會雜誌第16卷第4號(昭和17年1月)

腹部巨大腫瘍

和田 直

實驗醫報1月號

結核性腦膜炎トウイダール氏反應

和田 直

號診察ト經驗特輯號

流行性腦炎患者死亡狀態ニ關スル  
統計的觀察

林 富士郎

日本傳染病學會雜誌(昭和17年2月)

廣島縣下ニ發見セラレタル  
Kaschin-Bech 類似症ノ1例

野々村 太郎 吉良 良吉

岡山醫學會雜誌第54年第3號(昭和17年3月)

實驗的腦炎ト「ヴェラトリン」腦内  
注入ニヨル肺臟病變トノ比較研究

林 富士郎

岡山醫學會雜誌第54年第5號(昭和17年5月)

所謂一過性肺浸潤症ノ2例

平木 潔

岡山醫學會雜誌第54年第4號(昭和17年4月)

流行性腦炎ノ經膺免疫「其ノ1」

高原 劍二郎

日本傳染病學會雜誌(昭和17年3月號)

微量腦炎病毒證明ニ際シテノ血液  
凝固阻止操作ニ關スル批判的檢索

平木 潔

岡山醫學會雜誌(昭和17年6月號ノ豫定)

更ニ家族性「エオジノフィリー」ノ  
1例竝ニ脾臟機能ノ血液像ニ及ボ  
ス影響

平木 潔

岡山醫學會雜誌(近刊)(昭和17年7月號ノ豫定)

副腎ヲ中心トセル腹腔内自律神經  
ノ形態學的研究(家兎)

磯川 恕介

岡山醫學會雜誌第54年第5號(昭和17年5月)

副腎「ビタミンC」ノ研究(第1回)

磯川 恕介

岡山醫學會雜誌ニ近日發表

定型的偏頭痛ノ1例ニ對スル臨牀  
學の考察

榎本 正治

岡山醫學會雜誌第54年第5號(昭和17年5月)

腸間膜淋巴腺結核ヲ疑ハシメタル  
癥痕性腸間膜炎ノ症例追加

額田 須賀夫 榎本 正治

日本消化器病學雜誌(昭和17年6月掲載ノ豫定)

網内系ノ流行性腦炎血中中和物質  
ニ及ボス影響

高原 劍二郎 吉良 良吉

岡山醫學會雜誌(昭和17年7月號掲載ノ豫定)

昭和16年度岡山地方全型的竝ニ不  
全形腦炎患者ヨリノ病毒證明ニ就  
テ

平木 潔

岡山醫學會雜誌(近刊)(昭和17年8月號ノ豫定)

腦腫瘍患者ニ水投與ノ危險性ニ就  
テ

森 正 久

實驗醫報(近刊)

最近14箇年間ニ於ケル結核性腦膜  
炎ノ統計的觀察

山路 谷 典 吉良 良吉

岡山醫學會雜誌(近刊)



妊娠中ニ偶發セル流行性腦炎ノ2  
例ニ就テ

奥野正二 廣川 濟  
岡山醫學會雜誌(近刊)

同側錐體外路症狀群ヲ併備セル進  
行性左側顔面萎縮症ノ稀有ナル1  
例

奥野正二  
岡山醫學會雜誌(近刊)

オホツツラフチ中毒ヲ思ハシメタ  
ル1例

山路谷曲 竹林 茂  
治療及ビ處方(近刊)

## 北山内科教室五周年記念講演會

昭和17年5月24日日本學第1講堂ニ於テ上記ノ講演會ヲ開催。午後1時30分\*

北山教授御着席、次ノ順序ニテ會ヲ開始ス。

司會挨拶	松岡醫局長
國民儀禮	
開會ノ辭	和田助教授
記念品贈呈	平木講師
講演	

其ノ内容次ノ如シ

開會ノ辭	和田助教授
------	-------

開會ニ當リマシテ一言御挨拶ヲ申シアゲマス。

吾等ノ恩師北山先生ガ教授ニ御就キニナリマシタアノ感激ノ日ハ丁度滿5年前ノ明日ニ當ツテ居リマス。此時ニアタリ御就任滿5年ノ祝賀謝恩ノ記念式ヲ催シタク、一同ノ總意ノ下ニ數名ノ若ガ相集リ豫ネテヨリ計畫シテキタノデアリマスガ、先生ハ之ヲ固辭サレマシテ仲々受ケ入レテ頂ケナカツタノデアリマス。

蓋シ之ハ先生ノ時代ノ強キ御認識ト一方ニハ將來益々大ヲナサレントスル御雄志ヨリ出マシタ御言葉ト拜察イタシマシテ、最初企テマシタ舉式トイフ形式ヲ略シ、今日茲ニ開催イタシマスル様ナ同門會講演會、懇親會竝ニ教室論文目錄及ビ名簿作成トイフ三ツノ事ヲ行フ事ニ決定、教室ノ祝賀會ヲカネルトイフ事デ辛ジテ御許可ニナツタノデアリマス。

從ツテ特別ナ式、紋切り型ノ謝恩ノ辭トイツタモノハ一切省略イタシマシタ事ヲ御寛容願ヒマス。

諸先輩竝ニ諸兄ニハヨクコノ經過ヲ御諒察下サイマシテ、ササヤカ乍ラノ事業ヲナシ得ル運ビトナリマシタ事ヲ幹事一同ニ代リ厚ク御禮申上ゲマス。

翻ツテ考ヘマスルニ、北山先生ノ御人格ハ助教授ノ御時代ヨリ生等ノ敬慕



ノ的デアツタノデアリマスガ、教授ニ御就任以後ノ先生ノ御活躍振リハ誠ニ目覺マシキモノアリ、又全ク其ノ御蔭トシテ現ハレマシタ北山内科教室ノ發展振リハ吾々同門ノミナラズ本大學ノ大イナル或ハ無二ノ誇リデアリマス事ハ御存ジノ通りデアリマス。

2, 3日前東京ニ参リマシテ東大ヲ訪レタ時、某氏ヨリ「日本内科學會ニ北山教授アリ」トイフ言葉ヲ聞キ、我意ヲ得タリト莞爾トイタシマシク事ヲ附言致シマス。

先生ニハ御健康ニモ亦大イニ惠マセラレテ同心強キ極ミデアリ、又御尊父様、御内室様竝ニ御子息様モ御揃ヒニテ我世ノ春ヲ謳歌セラレ慶賀ノ念ニ堪ヘザル所デアリマス。

何卒、先生ニハ入御健康ニ御留意下サイマシテ、特ニ過度ノ御無理ヲ御控ヘ下サイマシテ永ク生等ヲ御導キ下サイマス様御願ヒイタシマス。

以上甚ダ短簡粗辭デ意ヲ盡サザル事甚シキモノガアルノデアリマスガ、前申シマシク理由デ、御挨拶謝恩ノ言葉ヲ兼ネ開會ノ辭トイタシマス。

尚ホ本日ノ諸準備萬端不行届キ至極デアリマスガ、全ク幹事ノ責任デアリマシテ、此點幾重ニモ御詫ビ申シアゲマス。

## 講 演

### 1 重症経過ヲトレル成人「チフテリー」症例

淺 野 靜 馬 君

23歳ノ陸軍二等兵、2月下旬風邪感ニ引續キ咽頭痛ヲ來シ3月初メ(第5病日)來診。咽頭稍々發赤腫脹、兩口蓋扁桃腺發赤シ容易ニ剝離シウル薄キ偽膜様白膜ヲ認ム。胸部全般ニ呼吸音甚ダ粗裂ニシテ處々ニ乾濕兩囉音アリ「カタル」性肺炎所見著明ナルモ「チフテリー」ヲ疑ヒ、第6, 7病日ニ「チ」血清15,000單位注射ス。第7病日咽頭粘膜ヨリ「チ」菌陽性ニ證明ス。然ルニ第8病日ヨリ概ネ下熱セシモ、コノ頃ヨリ著明ノ腦症併發、意識全ク混濁シ失禁、幻視覺等アリ、約1週間ニシテ漸ク意識恢復セルモ其ノ後第20病日頃ヨ

リ右顔面神經不全麻痺、頰部知覺鈍麻アリ、更ニ口蓋帆、軟口蓋、喉頭筋、兩聲帶ニ著明ノ後麻痺現ハレ無聲狀態ニ陥リ攝食物全ク鼻孔ニ流出アリ。又兩下肢ニ於テハ知覺麻痺竝ニ高度ノ弛緩性麻痺(右下肢ニ於テ尖足著明)ヲ來シ更ニ筋萎縮ヲ招來シ之ハ約3箇月後ノ今日モ尚ホ輕度ニ存ス。其ノ他兩上膊、各指ニ兩麻痺アリ。臍周圍ニ知覺麻痺アリ。又約第30病日頃ヨリ心臟麻痺症狀ヲ伴ヒ脈搏軟小頻數(120至)トナリ極力強心劑投與ニヨリ漸ク治癒ニ赴ケル1例ニシテ其ノ後麻痺ハ「ビタミン」B<sub>1</sub>脊椎内注入ニヨリ漸次恢復シツツアリ。尚ホ骨髓液壓ニ常ニ亢進、細胞數ハ每常正常ナルモ「グロブリン」反應ハ第85病日ノ今日モ陽性ニ認メタリ。(自抄)

追 加

北山 教授 「ビタミン」B<sub>1</sub>脊椎内注射ノ未ダ行ハレナカツタ頃「チフテリー」性腓骨神經後麻痺例ノ治療ニ困ツタ事ガアリマス。

和田助教授 物療科デ1老婦ノ後麻痺例ヲ經驗、各種ノ物療ニテ效果ナク技術員ガ困ツテイタノヲ記憶シテオリマス。

進藤直作君 近來「チフテリー」血清ヲ注射シテモ、咽頭ノ所見ガ從來ニ比シ餘リヨクナラナイ様ニ經驗シテオリマス。演者ノ例ハ如何

淺 君 野 診療ニ當ツタ耳鼻科ノ談デハ注射ニ依リ餘リヨクナラナカツタ様デス。

進 藤 君 連菌「ワクチン」、「ズルホンアミド」劑等ノ併用ニヨツテモ咽頭所見ニ輕快ヲ見ス。

和田助教授 夫レハ製造所ノ如何ニヨルノデハナイデセウカ。

進 藤 君 私ノ使ツタノハ總テ有効期間中ノ傳研製ノモノデス。

北山 教授 血清ハ材料難デ健馬ガ少ク傳研デモ悲鳴ヲ舉ゲテキル。

### 2 山口縣徳山地方ニ於ケル流行性肝臟炎ニ就テ

倉 重 晋 君

演者ハ徳山ニテ昨年7月ヨリ多數ノ黃疸患者ニ遭遇シ、諸種ノ點ヨリ流行性黃疸(黃疸性或ハ流行性肝臟炎)ト認メ、之ヲ發表セリ。



患者數 36 例 (男 17 例, 女 19 例) 年齢ハ 5 歳乃至 73 歳 (内最多キハ 20 歳臺 16 例). 職業ハ勞働者大部分ヲ占メ, 流行區域ハ市内 31 例, 市外 5 例ニシテ, 發病ヨリ受診ニ到ル迄ノ日數ハ大部分 2 乃至 8 日ナリ.

初發症狀ハ發熱 14 例ニシテ大部分ハ「風邪ヲ引イタ様デアル」ト訴ヘ, 所謂加答兒性黃疸ノ症狀即チ氣鬱, 全身倦怠, 惡寒, 發熱, 上腹部疼痛, 嘔氣嘔吐ヲ以テ發病シ, 數日乃至 10 數日後上記症狀ノ消失スル頃肝臟腫脹, 黃疸出現ス. 黃疸ハ必發ナルモ 1 例ニ之ヲ缺ケリ.

合併症トシテ肺炎, 腎變性, 肋水, 腹水等ヲ見タリ.

經過ハ輕症ニアリテハ 2, 3 週間ニテ治癒スルガ如シ. 但シ稍々重症ノ 1 例重症 3 例ハ長日數ヲ要セリ.

豫後ハ良好ナルモ死亡者 3 名 (肺炎, 胃潰瘍, 老衰死各 1 例) アリ.

治療トシテ肝精, 硫苦, 人工「カルルス」泉鹽, 「ロチノン」, 「ゲドツクス」等應用セシモ其ノ奏效如何ハ判定不能ナリ.

尙ホ流行性肝臟炎ト認メタル理ハ, 1) 黃疸患者ノ多發, 2) 家族内, 同一勤務所内及ビ隣家發生例計 6 組ノ存在, 3) 昨年來徳山, 防府及ビ宇部各市ニ黃疸患者一般ニ多キ事, 4) 症狀ワイル氏病, 秋季「レプトスピラ」症ト異ル等ノ諸點ナリ. (北垣抄)

#### 追 加

北山 教授 私自身之ヲ經驗シタノハ先年岡山ニ水害ノアツタ翌年デシタ. 市内殊ニ周邊ニ多發シワイルトシテハ解釋出來ズ, 興味ヲ抱イテ兒子, 野村, 高橋圭爾ノ三君ニ其ノ本態ヲ突止メテ貰ハウト考ヘ, 第 1 「レプトスピラ」症トノ異同ヲ凝集ニヨツテ調べタガ, 何レノ「レプトスピラ」トモ凝集ガ起ラナカツタ. 又地理的分布ヲモ調べタガ其ノ手記ガ紛失シテシマツテ残念ニ思ツテキマス. 其ノ時副産物トシテ市内ノ鼠ヲ調べテ約 20% 「スピロヘータ」ヲ有スル事ヲ發表シマシタ.

流行性黃疸ハ文獻デ見ルト瑞西, 英國, ロシアニモアル. Icterus infectiosa ト謂フノハ教書デハワイルト謂フ事ニナツテオルガ, 流行性黃疸ハ文獻カラ云フト日本ノ流行性黃疸ト同様デ, 之ハワイルト症狀ガ違フ. 傳染後淋

巴球增多症ガ 70 カラ 80 %ニナル. コノ點ガ特有デワイルト區別出來ル. 又豫後ガ宜シイ. 倉重君ノ報告ト同一デス. 潜伏期ハ短イ様デス. 目下傳研ノ北岡君ガ研究シテキマスガ, 大體接觸傳染ニヨルモノデ病原體ハ「ビールス」ト推測サレテキル. 私ガ調べテ見ルト之ハ岡山カラ次第ニ西漸シテキル様デス. 教室ノ入院ノモノ 7—8 例經驗シテ居リマス.

進藤直作君 2, 3 年前神戸ニ小流行ヲ見, 之ガーツノ谷間ニ沿ヒ發生シタ様ニ憶エテ居リマス.

北山 教授 之ハ秋疫トハ全然違フ. 秋疫ハ眼球結膜充血, 發疹, 出血等ヲ伴フ. 流行性黃疸ハ未ダ剖見例ガアリマセン. 普通デハ治ホル. 未ダ胸骨々髓, 尿等調べル所ガ殘ツテオリマス.

### 3 「チホバチローズ」ノ 1 例

傷痍軍人岡山療養所 佐藤 靜 馬 君

演者ハ, 結核未感染ニテ入學シタル 1 看護婦生徒ガ入學 7 箇月後ニ於テ何等ノ誘因ナクシテ發熱シ, 爾後約 8 箇月餘ニ互リテ弛張熱ヲ持續シ, 其ノ經過ノ末期ニ於テ右濕性胸膜炎竝ニ慢性腹膜炎ヲ發來シ遂ニ結核性腦膜炎ヲ惹起シテ斃レタル不幸ナル 1 例ヲ詳述シ, 之ハランドウチイノ所謂「チホバチローズ」ニ該當スルモノト爲シ, 之ニ關シテ 2, 3 ノ考察ヲ加ヘタリ. (自抄)

#### 追 加

倉重 晋君 在局時代 52 歳女デ, 初メ「チフス」様ノ高熱アリ地方デ診斷ツカズ, コチラデ色々檢ベタ所ウイダール陰性, マントーハ少シ出タ. 發熱ハ間モ無ク降り, 其ノ熱源ハ副氣管淋巴腺腫脹デアル事ガ判ツタガ, 其後多發性淋巴腺腫就中左側頸腺腫ヲ起シ發病後 1 箇年デ死亡シタ例ヲ見タ, 之ハ森君ト一緒ニ發表シマシタ. 少シ違ヒマスガ.

和田助教授 嘗テ結核性腦膜炎トビダール反應トニ就テ報告シタガ, 夫レニ關聯シテ「チホバチローズ」ニ言及シタ事ガアリマス. 佐藤先生ノ例ハウイダール 200 倍陽性デ殊ニ「バラチフス」Bニ於テモ出テオリマスガ, 私ノ



例ハ1000倍陽性デアツタ爲「チフス」トノ鑑別ガ困難デ經過ヲ見テ辛ジテ判明シマシタ。コノ結核性腦膜炎ノ際ニ脾ヲ觸レル事ガアルガ、先生ノ例ハ如何デシタカ。

佐藤君 脾ハ觸レテキマセン。

北山教授 マントーガ終リ迄陰性デアツタ事ハ殊ニ興味ガアル。ブルグシユノ参考書ニモ菌量、「テンボ」、内因等ガ非常ニ關係スルトアル。此場合ハ終始「アネルギー」ノ状態デアルガ、「ツベルクリン」終始陰性ナノハ豫後悪ク、斯様ナ内因ガアツテ「チホバチローズ」ヲ來スモノデアラウ。急性粟粒結核ニハ最多ク菌血症ヲ證明出來、「カリエス」デモ少數證明サレルガ、コノ菌血症ガアツテモ敗血症ノ症状ヲ來スカ否カハ個人ノ抵抗力ニヨルモノデアラウ。斯様ナモノハ誰ガ治療シテモ死ス。

#### 4 腸「チフス」ト結核

蓮池堯民君

演者缺席

#### 5 内科ト婦人科トノ境界疾患

殊ニ妊娠中毒性肺水腫ニ就テ

進藤直作君

最近新疾患トシテ婦人科學會ニ話題ヲ提供セル妊娠中毒性肺水腫 (Oedem-  
neklorisches Lungenoedem) ノ大體ヲ紹介シテ、内科醫トシテ之ヲ重要視ス  
ベキ要アルヲ説キ、次デ著者ノ經驗セル本症ノ再發例ヲ根據トシテ、本症ガ  
明カニ妊娠中毒性ノモノナルコトヲ述ベタリ。(自抄)

追加

佐藤靜馬君 妊娠7箇月ニテ呼吸困難ヲ來セル者ヲ見タ。血壓300、下肢  
ニ浮腫アリ、尿中ノ蛋白陰性。尙ホ其ノ後モ蛋白陰性、血壓302、呼吸困難  
アリ。人工流産ニヨリ順調ニ治癒シタ。蛋白尿全然ナク「ズルホ」デモ陰性ナ  
リシ例アリ。コノ點ガ違フガ報告スル。

進藤君 昨年ノ報告例中ニモ妊娠中毒性肺水腫ニ蛋白尿ノナイモノアリ、尿中蛋白ノ程度ハ輕重種々アル様デス。

北山教授 腦炎ニ關聯シ肺水腫ヲ調べタ事ガアル。腦炎ニ於テ之ヲ見、  
剖見デモ證明サレル。解熱劑ノ「ベヲトリン」ヲサスト實驗的ニ肺水腫ヲ起  
ス。一昨々年ノ內科學會デ腦中樞麻痺ニ關シテ佐々教授ノ報告アリ、コノ中  
ニ妊娠中毒性肺水腫ガ述べラレテキル。肺水腫ハ心臟方面、左心室不全或ハ  
肥大等カラノ觀點ヲ離レ中樞的ニモ來リ得ルモノデ、毒素ガ腦ニ働キ中樞神  
經、心臟神經更ニ肺臟血管自身ニモ作用シ其ノ透過性ガ昂マリ肺胞ニ浮腫ガ  
起ル事ガアリ得ル。私ハ初メ肺炎ト思ツタガ、イヅレモ胸苦シイト訴ヘ所見  
ノ無イモノガ恐ロシイ様ニ思ツタ。最近之ノ事ガ報告サレ内科醫ニトツテ注  
意スベキ事ト思ハレル。

#### 6 高度ノ皮下溢血ヲ伴ヘル後天性粘液水腫ノ1治驗例

内藤達雄君

患者92歳、1料亭主婦、約5年來定型的粘液水腫症状アリ、同時ニ心悸亢  
進(但血壓140—60耗、脈搏82整、心左側ニノミ肥大)ヲ訴ヘ、3年來兩  
側難聴本年ニ至リ四肢ニ出血傾向ヲ來シ前額、頬部、前膊、下肢ニ銀貨大ノ  
皮下出血斑ヲ呈ス。

演者ハ之ヲ粘液水腫竝ニシエーンライン・ヘノツホ型紫斑病ト診斷シ、「チ  
レオイド」1日量0.2竝ニ「ヘスベリン」1日量0.6持續投與。之ニヨツテ著  
效ヲ得、即チ1箇月ニシテ諸症殆ド消褪シ僅ニ多少ノ難聴ヲ殘セルモ、コレ  
亦其ノ後ノ「チレオイド」再治療ニテ1箇月後全ク消失、更ニ頭部發毛開始ア  
リ、心身共ニ若返リタル如キ狀ヲ見タリ。

次デ演者ハ、本例ニ於ケル紫斑病ノ成因ニ就キ疑義ヲ述べ、之ガ粘液水腫  
ノ1症状ナルヤ、或ハ單ナル合併症ト認ムベキヤニ關シ指教ヲ求メタリ。

(北垣抄)

追加

北山教授 元來粘液水腫ハ少ク私自身ガ經驗シタノハ2例デアル。一見



スレバ診断ハ容易デアル。又甲状腺製剤ガ非常ニヨク效キ副作用モ起シ難イ。又高度ノ皮下出血トノ關係ハ血管透過性ノ亢進ニヨルモノナラント思ハレルガ未ダ文獻ヲ見テキナイ。難聴ハ耳内ノ浮腫ニヨルモノナランカト考ヘル。コレハ他ノ浮腫(腎變性)ニ於テモ經驗スル事ガアル。

### 7 肺結核ノ「レ」線像ニ就テ

日 下 講 師

演者ハ病症ノ經過ヲ追ツテ撮影セル「レ」線寫眞ヲ供覽シ、空洞自然治癒ノ狀況、排膿氣管枝ノ重要性、結核進展ノ状態、「レ」線寫眞撮影上ノ注意等ニ就キ略述シ、2,3ノ考察ヲ附加セリ。(自抄)

### 8 傳染病漫談

須 賀 廣 太 君

演者ハ戦時下醫家ノ覺悟竝ニ各種傳染病ノ諸項ニ就テ語レリ。其ノ2,3ヲ摘記ス。培養基用肉汁ノ代用ニ田造リハ使用可能ナリ。又「チフス」合併症タル穿孔性腹膜炎ハ漸増シ小兒「チフス」ニ於テモ近時成書記載ニ反シ重症例ヲ見ル事多シ。次ニ「チフス」發疹熱等ノ診斷ニ當リ血清反應ニ依リシ過ギ爲ニ誤診ニ陥ルニ非ザルヤト思ハルル點アリ、先ヅ臨牀ノ所見ヨリシテ大過ナシト決定シタル後血清反應ノ検査ヲ行フ事必要ナリ。治療ニ關シテハ本學武田助教授追試中ノ保菌者ニ對スル肝臟「レ」線照射ヲ紹介シ、赤痢ニ對スル「ズルフアピリヂン」ノ奏效ヲ肯定セリ。終リニ肝臟「ヂストマ」ノ研究ハ石坂某氏ノ剖見ヲ以テ嚆矢トスルモ同人ノ經歷等不詳ナレバ散逸セザル内ニ材料ノ蒐集、調査ヲ希望スト述ベタリ。(北垣抄)

### 9 5箇年間ノ回顧

北 山 教 授

先程和田助教授カラ過分ノ御辭ヲ頂キ又一同カラ記念品ヲ御贈與ニナリ實

ハ恐縮云フ所ヲ知ラナイノデアリマス。私ノ就任五周年ノ心算デナク、教室ノ五周年ニナルノ度一度ココデ研究別刷ヲ印刷シツ縮ククリヲシテ、又次ノ五箇年新シイ氣持デ出發シヨウト云フ氣持デ本會ヲ相談致シタ所、意外ナ事ニナツテシマツテ洵ニ恐縮至極デス。他ノ教室デハ毎年1回宛教室關係ノ方々ガ集ツテ小學會ヲ催シテキラレルガ、我々ノ教室デハ私ノ怠慢カラ未ダ1回モ催シテキマセズ、カカル意味デ本日コノ會ヲ開キマシタ處違方デ而モ非常ニ御多忙ナ柿沼先生時代ノ方々モ御出デ下サレ貴重ナ御經驗ヤ研究事項ヲ發表セラレ何ヨリ感激ニ堪エヌ次第デアリマス。

惟フニ菲才私ガ柿沼先生ノ後ヲ承ケタノハ丁度昭和12年デ支那事變ガ其ノ夏勃發シ、爾來醫局關係ノ先輩ヤ在局中ノ人々ガ次々ト應召シ輝シイ第一線ニ雄々シク起タレ、近クニハ昨年暮ノ大東亞戰トナリ、醫局ノ内外トモ從來ニナイ大變革ヲ來タシ、例ヘバ醫局ノ研究室ノ材料ヤ人事ノ事ニモ勢ヒ隨分窮屈ト無理ヲ御願ヒシタリシテ洵ニ濟マスト思フ點モアリマスガ、一面已ムニ止マレヌ所モアリ諸君ニハ私ノ意中ヲ御察シ下サツテ各自和氣満々ノ裡ニ醫學ニ精進サレル事ハ私ノ最モ欣懐トスル所デアリマス。

又醫局外ノ事ニ眼ヲ轉ジマスレバ中島君ハハルビン滿鐵ニ、吉田、松田君ハ新京ニ活躍セラレ、和田助教授ガ今回現職ノママ倉重君ノ居ル山口ノ山陽莊長ニ進出シ、森正、森加、藏本、福田君等夫々吳ト廣島デ氣ヲ吐キ、四國デハ内藤、横山、宇都宮諸君ガ重キヲナシ、京阪神デハ村山、進藤、蓮池、篠井ノ諸氏ガ活動セラレ、近クデハ日下所長ガ大學、田中氏ガ醫專ノ教授ヲ分擔シテ下サツテ、其ノ他山陰ノ諸氏等洵ニ多士濟々、之モ偏ヘニ齋藤、柿沼先生以來ノ教室ノ傳統精神ニ基クモノトシテ慶賀シ、又毎年卒業生ノ中カラ優秀ノ學生ガ入局スル傾向モアツテ、之等ノ點私トシテ非常ニ惠マレテキルト常々感ズルノデアリマス。又一度ビ今回ノ聖戰ニ從事セラルル諸士ニ眼ヲ轉ズレバ、北ハ北滿ノ露野氏カラ南ハジャバノ輓氏ニ至リ、家庭ヲ棄テテ軍醫トシテ聖戰ニ奉公シ殆ド健在デ居リマスガ、唯儀ニ支那デ小森文哉博士ヲ喪ヒ先月阿部君ガ南方デ名譽ノ戰死ヲ遂ゲラレ、何レモ前途有爲ノ士デ洵ニ哀悼ノ極ミトモ云フベク謹ミテ一同ト俱ニ深甚ノ弔意ヲ捧ゲタイト存ジマス。



然シ又反面諸君ノ御家庭デハ慶事モアリ、數ヘレバ五箇年ノ變動ハコノ教室  
同門ノ間ダケデモ多事デアリマス。

次ニ教室ノ業績ニ就イテ檢討致シテミマス、當初ハ自律神經中樞ニ重點  
ヲ置イテヤツテ見タイト思ツテ始メタノデアリマスガ、學振ノ腦炎委員ヲ仰  
付カツタノデ自然其ノ方ニモ進展シ本年カラ豫防及ビ治療ニ移ルコトニナリ  
マシタ。又昨年秋ノ金澤竝ニ本年春ノ東京デノ特別講演ニ於テハ、腸間膜就  
中其ノ淋巴腺性疾患ニ就キ教室員ノ努力ニ依リ多少見ルベキ結果ヲ得タノデ  
アリマスガ、何分淺學未ダ日暮レテ途遠シノ感ガアリマス。然シ醫學ハ一生  
ノ仕事故、其ノ覺悟デ再ビ諸君ト協力相進ミタイト考ヘテキマス。述ベタイ  
事ハ限リナクアルノデアリマスガ、要ハ努力ニアルノデ之以上述ベマセン。  
冀クハ今日ヲ契機トシテ又次ノ五箇年健康ニ留意シツツ俱々ニ醫學ニ精進  
シ、次回ハ本當ノ醫局記念會ヲ再ビ催シタク互ニ會ノ日ヲ待ツ次第デアツテ  
特ニ諸君ガ益々各部門ニ於テ發展セラレン事ヲ刮目期待シテヤマヌ次第デア  
リマス。

茲ニ御禮ヤラ感想ヲ述ベテ御挨拶ノ辭ニ代ヘル次第デアリマス。

(文責在 北 垣)

昭和十七年七月二十日印刷  
昭和十七年七月廿五日發行

岡山醫學部今村下中野  
編輯兼發行人 平 木 謙  
岡山右京中山下二二三  
印刷 人(西岡元)村 本 万 龜 男  
岡山京屋中山下二二三  
印刷所 研 精 堂 印 刷 所  
岡山 市 岡  
發行所 岡山醫科大學北山内科教室內  
北山内科同門會



然シ又反面諸君ノ御家庭デハ慶事モアリ、數ヘレバ五箇年ノ變動ハコノ教室  
同門ノ間ダケデモ多事デアリマス。

次ニ教室ノ業績ニ就イテ檢討致シテミマスト、當初ハ自律神經中樞ニ重點  
ヲ置イテヤツテ見タイト思ツテ始メタノデアリマスガ、學振ノ腦炎委員ヲ仰  
付カツタノデ自然其ノ方ニモ進展シ本年カラ豫防及ビ治療ニ移ルコトニナリ  
マシタ。又昨年秋ノ金澤並ニ本年春ノ東京デノ特別講演ニ於テハ、腸間膜就  
中共ノ淋巴腺性疾患ニ就キ教室員ノ努力ニ依リ多少見ルベキ結果ヲ得タノデ  
アリマスガ、何分淺學未ダ日暮レテ途遠シノ感ガアリマス。然シ醫學ハ一生  
ノ仕事故、其ノ覺悟デ再ビ諸君ト協力相進ミタイト考ヘテキマス。述ベタイ  
事ハ限リナクアルノデアリマスガ、要ハ努力ニアルノデ之以上述ベマセン。  
冀クハ今日ヲ契機トシテ又次ノ五箇年健康ニ留意シツツ俱々ニ醫學ニ精進  
シ、次回ハ本當ノ醫局記念會ヲ再ビ催シタク互ニ會ノ日ヲ待ツ次第デアツテ  
特ニ諸君ガ益々各部門ニ於テ發展セラレン事ヲ刮目期待シテヤマヌ次第デア  
リマス。

茲ニ御禮ヤラ感想ヲ述ベテ御挨拶ノ辭ニ代ヘル次第デアリマス。

(文責在 北 垣)

昭和十七年七月二十日印刷  
昭和十七年七月廿五日發行

岡山縣備前郡今村下中野  
編集發行人 平 木 潔  
岡山市東中山下二二三  
印刷 人(西岡元)村 本 万 龜 男  
岡山市東中山下二二三  
印刷 所 研精堂印刷所  
岡山市岡  
發行 所 岡山醫科大學北山内科教室内  
北山内科同門會



特255

932

終